

千葉県生涯学習審議会 第4回子どもの読書活動推進部会 議事録

日時：令和7年5月23日（金）

午後2時～午後3時30分

会場：千葉県教育会館 別館3階会議室
対面及びオンライン

出席委員（五十音順 敬称略）

乾 喜一郎 内田 淳一 加藤 由美子 堀野 仁美

出席事務局職員

千葉県教育庁教育振興部生涯学習課長

松村 賢一

千葉県教育庁教育振興部生涯学習課

主幹兼社会教育振興室長

大和地章記

社会教育振興室 社会教育班長

大坂 学

同

主査

吉田 隆修

同

主事

江尻 有希

1 開 会

2 部会長あいさつ

3 議 事

（1）子どもの意見聴取の結果について

議 長 それでは、進行させていただく。初めに、子どもの意見聴取の結果について、事務局から説明をお願いします。

事 務 局 子どもの意見聴取の結果について、事務局より説明する。資料1を御覧いただきたい。

子どもたちの読書活動の実態等を把握し、第五次推進計画策定の参考にすることを目的に、昨年7月、子どもの読書活動推進部会の皆様に協力いただき、小・中・高校、各1校ずつ訪問してインタビュー調査を行った。その結果、子どもたちの読書への取組状況や意見等を聞き、おおよその傾向を知ることができた。さらに、児童生徒の意見を掘り下げ、計画内容の参考とするため、今年1月に小・中・高校の各5校にアンケート調査を実施した。そのアンケート結果が資料1である。

質問1、読書が好きかの問いに対しては、不読率が高いと言われる高校生も小

中学生と回答の割合はあまり変わらない結果となった。

質問2、学校の授業以外に1日当たりどれくらいの時間、読書をするかについては、高校生の半数は全くしないと回答し、小中学生も含め約6割から7割が読書時間が30分以下であることが分かった。

質問3では、質問2のうち「④全くしていない」理由を複数回答可として尋ね、小学生では「本を読むのが好きではない」が6割を超え、中高校生は「読書以外に時間を使いたい」との回答が最も多い。

質問4では、これまで読書をしてきてよかったことは何かを尋ねた。これらは学校種により回答の割合に大きな差は見られず、約8割の児童生徒が読書をしてきてよかったことがあると捉えている。

質問5では、読書や本に興味を持つためのアイデアや意見を尋ね、図書の充実をはじめ多くのアイデアや意見を聞くことができた。回答の中で、ライトノベルを望む声が多い印象を受けた。そのほか目立った回答は、一人一台端末やスマートフォンで本を読めるように電子書籍を導入してほしいということであった。書籍の充実や電子書籍の導入は不読率の低減につながると考えられる。その他、図書館の開館時間延長、学校図書館の放課後の開放など多様な意見を聞くことができ、読書活動推進計画の参考とし、計画の内容に反映した。

子どもの意見聴取の結果は、市町村の読書活動推進計画の策定や推進活動の参考としていただくため、読書活動推進計画の資料として載せたいと考えている。ほかにも推進計画作成の参考になる子どもたちの意見があると思うので、皆様がお気づきのことなどがあれば意見をいただきたい。よろしくお願ひしたい。

議長 事務局から説明のあった意見聴取の結果について、委員から意見、質問はあるか。

委員 小・中・高校それぞれの子どもの充実した意見である。具体的に要望や嫌いな理由も含めてコメントが豊富に入っているものを調査されたことに、改めて感謝する。その上で1つ伺いたい。

質問1と質問2は、ほかの全国的な調査でも問われている質問だと思う。これを全国の数字と比較して、何か千葉での特徴はあったか。それとも全国的な傾向と変わらないということか。全国の数字でも地域によって差が出ているような調査だったかと思う。もし何か気づいた点があれば、好きなのかどうかと1冊も読んでいないという部分の質問1と質問2について伺いたい。

加えて、中で印象的だったのが、図書館があと10分開いてほしいというコメントが高校生の声であったが、この10分は大きな数字と捉えられる何か事情があるのか、もし想像がついていたら伺いたい。

事務局 調査結果の、好きか、または質問2のどのぐらいの時間かについて、現状、全国との比較はできていない。今後、全国の質問と結果を含めて検証してみたい。今数字ですぐにお答えできることはなく申し訳ない。

もう一つ、9ページの「開館時間を10分くらい長くしてほしいです」については、子どもたちの声をそのまま載せさせていただいた。「子どもたちが、より読書をするには何かアイデアがあるか」というところで、これは、ほかの子も「長くしてもらえたら行ける」と考えている子がいるので、そういう意図で書いたのか推測の域を抜けないところがある。

委員 これが1時間とかの数字であれば、長くしてほしいということかと単純に思ったが、10分と書かれているのは、高校の授業の時間割とその地域の図書館の開館時間にちょっとしたことで解決できるヒントが入っているのではないかと感じたので、何かしら注意されるところがあれば、ぜひというポイントである。

事務局 ありがとうございます。今いただいたことを事務局としても持ち帰らせていただいて検討したい。

委員 今、話があったように、子どもたちの要望がたくさん聞けたのがすごく意義があったと思う。その中で特に小学生については、いろいろな本を増やしてほしいという意見が多かったと感じている。また、中学生になると、タブレットという意見が大分出てきているので、発達段階における学校や図書館での蔵書のそろえ方に、これは一つ子ども目線で大変参考になるのではないかと感じた。

1つ質問である。質問4「これまで読書をしてきてよかったことは何ですか。」という質問は、質問3で授業以外に全く読書をしていないと答えている子どもも含めて、全ての子どもたちが答えているのか。よかったことが意見として上がっていて、読書を家でしていなくても、読書に対する意義を感じているのかと思ったので、質問を全員に取っているかどうか教えていただきたい。

事務局 ただいまの質問4の「これまで読書をしてきてよかったことは何ですか。」は全員に聞いている。なので、読書を全くしていない子も読書に対する意義は感じていと、この数字からも感じたところである。

議長 その他あるか。質問はよいか。
それでは、他に質問、意見はないということで、先へ進む。

議事(2) 千葉県子どもの読書活動推進計画(第五次)の原案について

議 長 議事(2)千葉県子どもの読書活動推進計画(第五次)の原案についてに移る。事務局から説明をお願いします。

事 務 局 資料2、千葉県子どもの読書活動推進計画(第五次)(原案)は、前回の部会でいただいた意見と今回お示しした資料1の子どもの意見聴取の結果についてを踏まえて作成した原案である。素案から加えた部分を中心に主な取組の説明をさせていただく。

まず、原案17ページ、基本方針1の「家読」(うちどく)の推進、下から5行目に、保護者と一緒に図書館へ行き、本を借りて読書をする姿を見せることや、「こどもの読書週間」等、読書に関するイベントに参加することなど、家族で読書を楽しむことについて追記した。

22ページ、小中高の全校をあげての読書活動、読書機会の設定の下から3行目、子どもの意見聴取の結果から、放課後の学校図書館の開放等を追記した。

また、先ほど説明したライトノベルを望む声が多いことや、読書をしたくてもできない子どもたちの取組、図書の充実を図る観点から、24ページの(オ)推薦図書、YA(ヤングアダルト)コーナー、りんごの棚の設置を追記した。

同じく24ページの子どもの意見聴取の機会について、下から5行目に、子どもの意見聴取はもとより、保護者が求めている情報は何かを把握し、情報を発信していくことも加えた。

次に、基本方針2、多様な子どもたちの読書機会の確保について、26ページに千葉県の具体的な取組として、県立図書館で実施している多文化サービス、読書バリアフリー相談窓口について追記した。

また、27ページ、(2)アの下から5行目、アンケート調査で意見の多かった一人一台端末の利用や電子書籍についてを、また、30ページ、(5)普及・啓発として、下から4行目は、私どもが主催する「千葉県子ども読書の集い」においても読書に関する情報を提供するように努めることを追記した。

33ページからの資料は、国の「子供の読書活動の推進に関する基本的な計画(第四次)」策定時、平成30年度からの千葉県における子どもの読書に関する数値の経年変化や、先ほどお話しさせていただいた子どもの意見聴取結果のほかに、読書に関する法令や情報等のリンクを掲載している。

皆様には、再度全体を通して御覧いただき、本日お示しした子どもへのアンケート調査の結果も参考に意見を伺う。

なお、本日いただいた意見を踏まえて原案を修正し、生涯学習審議会で報告させていただく。よろしくをお願いします。

議 長 事務局から説明のあった千葉県子どもの読書活動推進計画の原案について意見、質問を受ける。何かあるか。

委員 前回までの議論や今回の調査を踏まえて非常に充実したものになってきていると感じた。特に読む対象の多様さ、ライトノベルも含めてという部分と、バリアがある読むことの難しい子どもたちに対しても目配り、配慮を働きかけようとしている部分、接点を強化しようとしているところ、それぞれ非常に重要なポイントが反映されたものになっていると感じる。

私からは、大きく全体に関わる前提についてのポイントと、細かなポイントの2点お話ししたい。まず前提について。2ページに用語解説のページがある。この中に「読書」という言葉自体については定義が入っていない。大体こういうところでいいのかというのが頭の中にあっただとしても、今回の話の中に漫画についての強化の部分がある。子どもたちの声の中にも、ライトノベルに加えて漫画をというところもあり、図書館にもという取組も入ってくる。ところが、アンケートでは漫画は除くとなっている。読書活動といったときに、漫画を読むことが定義の中に含まれるのかどうか。例えば漫画も含めて不読率を下げっていく取組をしたとしても、読書の定義が変わらないままだと、調査のときには漫画を除くとなるので、全く効果が見えないことになる。この段階で「読書」というのは、そもそもどういったものなのかを定義しておく必要がある。特に今回の取組の中では電子や、あるいはLD的な障害の方や視覚障害の方向けにオーディオブックも検討していくと書かれているので、そこも含めてオーディオブックは読書に入るのかどうかも併せて、一旦この2ページに定義しておく、取組を進める上で方針が明確になっていくと感じた。

2点目は細かいところであるが、17ページの一番下に取組が書かれている中で、表現として「家族で読書を楽しむ」と書かれているが、親御さん本人が楽しむというところがこの表現だと入ってこない。子どものために楽しむだけではなく、保護者自身が楽しむことが子どもの読書活動にいい影響を及ぼしていくというのは必ず言われるケースなので、ここは例えば「家族をはじめ身近な存在が」というようになっていくと、そこも含めた表現になっていくと考えた。

事務局 読書の定義については、今いただいた話を基に、また事務局で持ち帰らせていただき、他県はその辺をどう捉えているのか。漫画やオーディオブックを読書の定義の中に含めるかというところは、他県の確認や検討をしてみたい。

また、17ページの「家読」（うちどく）の表現について、「家族で」というよりは、親御さんも含めた表現になるように表記できるよう、いただいた意見を参考にさせていただきたい。

議長 読書はどこまでが読書なのかは非常に難しい問題だと思う。持ち帰って事務局で検討していただきたい。

委員 もしよければ、せっかくの機会なので、他の委員もどう考えるか伺いたい。

事務局 読書の定義というところで、意見があれば、よろしく願います。

委員 今、意見を伺っていて、なるほどと思ったところは、子どもたちのアンケートの中に漫画というワードが出てくる。例えば、週刊少年誌とかでなくても、特に小学生の様子を見ていると、人気アニメの何らかのシリーズや歴史物でも、今漫画で描かれている歴史の本もあって、特に小学生は漫画で描かれているものをよく読んでいて現状として感じている。細かいことを言えば、漫画をどこまでにするかにも関わってくると思う。高校生や中学生が漫画で描かれたものをどの程度読んでいてか分からないが、漫画も活字の文化であるということは間違いないと思うので、もしかしたら漫画というワードが入ったことでアンケートも、この後の経年変化を見ていく中でも数値が変わってくるかという期待もあると感じている。

委員 読書について、漫画の在り方は図書館司書の立場としても常々難しいと感じていた。特に今の子どもたちは生まれたときから身近に漫画がある環境で、恐らく物語を読むよりも漫画を読むことのほうが身近で、読みやすいという側面もあるので、漫画が生活の中に根深く入っていると感じる。そういった面からも、漫画は活字に入る前段階、取っかかりにはなるのではないかと思うが、そこから先、きちんとした小説や調べ物の本という活字にどう結びつけていくのか、そのアプローチをどう進めていくのかが不読率にも大きく関わってくると感じている。

今、ビジネス書の世界にも漫画が大きく進出している状況であるが、漫画だけで出版されている内容だけでは、情報として不足があるところは否めないで、漫画も含めて幅広い情報や小説を楽しむ土壌を子どもの頃にどれだけ養ってあげられるのかが、この子ども読書活動の推進に大きく関わってくるのではないかと思う。

委員 私のところでは、若年層の学生とか若手の社会人と接していて、基本的に漫画も読まなくなっているケースがある。スマホでの縦コミックは読んでも、しっかりページ物の漫画を追いかけていくのは難しくなっているところがあって、そこに危惧を感じている。読書を定義したときに、自ら主体的に情報を取りに行く、ページを自分でめくっていくという体験ではなく、動画で流れてくるものを受動的に受け取るだけという形をどこまで入れるのかどうか。自ら受け取りに行くという行動が読書の中に入っているのではないかということも若者と接している危惧である。若者だけではなく、中高年もかなり離れていっている人もいるので、そういったところが気になって伺いたいと思った。

事務局 今それぞれの委員からいただいた意見を聞いて、なるほどと感じるところが多

くあった。参考にさせていただき、読書の定義を検討してみたいと思う。いろいろな意見をいただき、ありがとうございます。

そのほかに意見があればお願いしたい。

委員 31ページの「目標と評価項目について」で1点質問させていただく。②不読率で、高校2年生の目標値が35%になっている。これは33ページの資料を見ると、不読率が令和3年（4年と発言）に比べると令和5年が10%ぐらい傾向としてはよくなっているが、令和6年が逆にまた39.8%と高くなっているところから、35%という設定にされているのかと感じたが、どのような観点で35%という設定になったのか教えていただきたい。

事務局 評価項目の表では、現状（R5）となっているが、毎年やっている調査は、まだ令和6年度の数が出ていないものがあるので、R5で載せさせていただいている。資料では令和6年度の高校生はこういう結果である。全国的に見て不読率は高校生が45%前後で、これを基に千葉県の現状の数字と比べて可能であろうという目標とするのに、この35という数字がいいのではないかとということで設定している。

委員 小学生や中学生の期待値から見ると、高校生はこの数字だけを見ると期待値が低いという印象を受けたが、分かった。

委員 私も31ページの目標と評価項目に関して1つ伺いたい。③市町村子ども読書活動推進計画策定率が令和5年度、市が86.5%、町村が47.1%となっていて、令和11年が市は100%、町村は88%が計画を策定する目標となっている。こちらについては、県として市町村に対してどのような働きかけなどを行っていきと考えているのか。今策定されていない市町村がこれから策定するのはハードルが高くなかなか踏み出しづらいと感じるが、そういったところに対して、県としてどういう働きかけや支援を行うことにより、こういった目標を考えているのか伺いたい。

事務局 市町村の策定率は、地区によっては図書館がないというところで設定が難しいというところも聞いている。県としては、図書館もそうであるが、子どもたちは学校等での読書活動もあるので、策定を促していくというスタンスである。なかなか難しいところであるので、今後、策定がまだされていないところへの訪問を行い、計画の作成に向けてのひな形を提示したり、困っているところを聞き、それに対して助言をできる範囲でしていきたいと考えている。これから未策定の市町村を訪問して話を聞いてみたい。

委員　　なかなか踏み出さないところにこういう計画だけ持っていても、先に進まないと感じていたので、具体的に訪問して声がけされることで1市町村でも多くの計画がつくられて、子どもたちの読書活動の充実につながればいいと思う。大変だが、頑張っていたきたい。

議長　　その他いかがか。そろそろ出尽くしたということでよいか。
それでは、議事は以上で終了したい。議長の任を解かせていただく。御協力ありがとうございました。

4 諸連絡

5 閉 会

－ 以上 －